

全 仏

NO. 209

7 / 50



婦人年と仏教

国際婦人年世界会議がメキシコにおいて開幕された。「男女はライバルではなく、平和実現の相互協力者たれ」とはメキシコ大統領夫人マリヤ・エステル女史のあいさつである。日本婦人は一体どのような処方箋で社会改革と開発にウーマン・パワーを発揮しようとするのか注目される。

ところで既成仏教はもちろん、とくに新宗教の仏教信者は、その大半が婦人であるという。仏陀の女性観は、俗人女性に対してはかなりフェミニニスト的ではあるが、仏教教団における女性五障説は根強い風潮であった。

弥陀の本願には「老少善悪のひとをえらばず」とした親鸞ですら「變成男子の願をたて……」と述べざるを得なかったところに、仏教の伝統的ドグマの厳しさがあ
る。婦人年にあたり、この点を頼
かむりすることなく問題を提起し
今日的に検討すべきではないか。

(S・M)

(バンコク ウェサカ祭 施食供養の法
要をおこなう留学僧—四面記事参照)

教化担当者会議開く

21宗派、40名参加 京都本能寺会館で

が行われ、つづいて真溪義貫文化専門委員長が問題提起を行った。午後からは全員によるデスクッションが行われ、午後三時ごろ閉会した。

なお、当日は真言宗豊山派、智山派、大覚寺派、高野山、国分寺派、念法真教、

など二十一宗派より担当の部長、及び今年全仏大会が開催される兵庫県仏の会長、副会長を中心とした四十名余りが出席された。

【写真は本能寺会館の担当者会議】



第四回各宗派教化担当者会議が、六月九日、京都本能寺会館会議室を会場として開催された。この会議の目的は、日ごの各宗団の教化伝道を全一仏教運動として展開して行くには、如何に進めていったならばよいか、という点をお互いに求めて行くものである。開会式のと、鶴見大教授松野純孝先生より「仏教以外の他宗教の伝道方法について」基調講演



松野純孝先生

“他宗教の伝道方法”

松野純孝先生の講演要旨

「仏教以外の他宗教の伝道方法について」ということですが、生長の家とモルモン教を例にと

総裁などの講演を中心に動き、テキストを使用する。これは文書伝道で、キリスト教の「ものみの塔」とならんで、特に力をそいでいる。また「人類光明化運動」をやっているが、これは希望を持つということ、物事を常に明るく見ようとして、くよくよ思いつむところから脱却する、ということを通して、強くなる。ある外人が日本仏教の将来をうらなって、将来キリスト教の国になるであろう、それは仏教に希望性がないからだ、といっていますが、われわれにとって注意すべきことです。

新宗教はそのほとんどが在家教団であり、そこにはプロの宗教家はいない。これが新宗教一般の特徴です。生長の家は、宗教のデパートともいわれる、神道、仏教、キリスト教とあらゆるものを揃っている。もともと谷口氏の、「生命の真相」を購読した人々が集まったのが発端で、読書サークルのような運動でした。のちに宗教団体となり、谷口

生長の家では、研修の一つとして腹の底から笑うという訓練をやっていますが、大阪には笑う宗教というのがあり、人生

を明るくするというをやっています。黒任教では、人が死にますと「おめでと」う」ということをいう。天理教では「陽気暮らし」という考え方があり、天理教大本教では、死は「出直し」だといっている。このように「死」を「笑」に転換するというのは、どういふところからできたのか考える必要があると思う。

例えば立正佼成会では、絶望のどん底にある者に対して無常の論理を説いています。仏教の通念からすると、火に油をそそぐようだが、佼成会では希望の論理になっていきます。新宗教における無常とか業の考え方は、われわれのとは視点が逆なわけです。こうした面も考えてみる必要があると思います。いろいろな面で生長の家などの明るい面に眼をむけていくというのは非常に示唆するものがあります。

また生長の家には連帯性があり、人間はすべて神の子と申して、仏性とか神性というものを、その人に放り出してやるんだという考え方があります。霊友会でも、会員全体がその人の成仏を願って祈るという連帯性があり、ここに信者にとっては魅力があるわけですね。

次にモルモン教になりますが、この教団は十九世紀末に成立したアメリカの新興宗教です。新興宗教とは日本のみの産物でなく、アメリカ、ヨーロッパにもたくさんあります。これはなぜか？つまりアメリカの教会では、貧乏人のクラスは教会から閉め出され、そこに新しい宗教が生まれるのです。モルモン教もその

一つで、アメリカで疎外されているインディアン、そうした人々の欲求によって誕生したものと思えます。当然庶民性をもち、しかもエネルギーをもっている。自発的な意志で、手弁当でやっています。その大半が学生ですが、とにかく熱心です。

最も注目すべきことは、彼らは家庭を最も大事にする。校友会では家庭成仏を強調しますが、モルモン教では、夫が妻をおいて単身日本へ布教にすることはできない。家庭を基本としています。つまりモルモン教を信ずれば、来世においても夫婦は必ず一緒の所に生まれることができますという信仰です。これは日本の中世に浄土教が多く信者を得た一仏浄土に似ています。

そして家庭の中においては「家庭の夕べ」を毎週開き、父親がリーダーとなりまして、宗教の話をしたり、一家の計画をたてたりして語り合います。

今日のように「家庭から個人へ」という宗教団体のキャッチフレーズは、流動社会で個人を相手にしたのでは、その宗教はいつも遊離してしまう。なんといっても家庭を押さえないと、その宗教は根づかないと私は思います。そういった意味では、まず家庭からという考え方を大いに学ばなくてはならないと思います。

デスカッション 真溪氏司会

午後からのデスカッションは真溪氏が司会となつて行われたが、一つの場所

多勢の方々の発言を求めることがなかなか難しく、分科会としていくつかのパートにわかれて話した方がよいのではないかと、何か無理に全仏大会に結びつけていこうという姿勢はおかしいとお叱りをうけた。

問題としては宗教法人立の幼稚園について、仏教者は如何なる態度で今後のぞんでいったらいいか、と同時に、教職兼務の僧侶はその職場においてどうあるべきかが討議された。「人類の未来」については書籍紹介(別項)ということになった。

人類の未来に関する参考書

- 未来の思想(小松左京著)中央公論新書
- 人類の行方(渡辺格他)みすず書房
- ライフ・サイ(渡辺格著)日本経済新聞
- 成長の限界(ダイヤモンド社)
- 未来はあるか(朝日新聞社編)
- 誰が生き残るか(Rリフトン)誠信書房
- 人類は滅びるか(今西錦司他)筑摩書房
- 人間の未来(梅田敏郎訳)みすず書房
- 終末論的考察(大木英夫)中央公論
- 人類の百万年(Aモンテギュー)現代教
- 人間に未来(大川節夫訳)みすず書房
- 人類は生き残れるか(今西錦司)恒文社
- 生命論の哲学的基礎(永井博)岩波書店
- 生と死の未来(吉田忠雄著)読売新聞社

智積院金堂の落慶式

真言宗智山派總本山智積院(京都・東山)では、宗祖大師ご誕生千二百年記念事業として、かねてより建設中であった金堂が完成、新造願された本尊大日如来を安置し、六月十五日、その落慶式典の盛儀がくり広げられた。

午前中は本尊入仏開眼大曼荼羅供、午後、金堂竣工慶讃式典が奉行された。全仏より岸信宏会長が出席した。

暑中御伺い

第23回全日本仏教徒会議 兵庫大会へのご参加をお待ち申し上げます。

兵庫県仏教会

- 会長 佐藤 覚雄
 - 副会長 大谷 昭世
 - 副会長 小西 顕龍
 - 事務局長 田中 寿雄
 - 参事 雲井 弘善
 - 参事 河野 文明
 - 主事 青柳 泰晃
- 神戸市兵庫区松本通 三丁目 法華寺内

暑中御伺い

財団法人 日本仏教鑽仰会

理事長 中山 理々

神田事務所
東京都千代田区内神田二一三二五
鎌倉ビル内
〒111 〇三〇(二五六)四九一一

梵人会

主幹 河合 智海
副主幹 吉田 昭炳

金沢市東山二丁目一四ノ三三
(本部)

聖観音宗 金龍山 浅草寺

管長 清水谷 恭順
宗務総長 壬生 台舜
東京都台東区浅草二一三一一
〒111 〇三八(四〇)〇一八一

第11回WFB大会は明年二月 バンコクで開く

常任理事会で定まる

世界仏教徒会議（WFB）の常任理事会が、五月二十六日、タイ・バンコクのWFB本部会議室で開かれ、日本から全仏の桜井大乗事務総長と石川恒彦国際書記が出席した。

会議では、まずブリン会長より「本年タイで開催する予定の第十一回WFB大会が国内事情で延期されているが、明年二月十五〜十七日にバンコクで開催したい」と提案があり、万場一致で承認された。このほかユネスコと中国仏教会（台湾）をメンバーにもつWFBの関係、



WFBの常任理事会、左端は桜井全仏事務総長

WFBY（世界仏教徒青年連盟）の事務総長の後任問題、ルンビニ開発問題などが討議されたが、いずれも結論にいたらなかった。

なお、明年二月の大会に先立って、WFB常任理事会が、今年十二月五、六日にもう一度バンコクで開かれる。

ウェサカ記念の施食供養

常任理事会の前日、五月二十五日にWFB本部の主催で、在タイ各国留学僧に対するウェサカ記念の施食供養が行な

われ、桜井総長、石川書記も出席した。

施食供養は大衆がWFB本部の講堂に着席すると、留学僧約百八十名が登壇しパリタ（明護経）を誦誦。そのあと階下の食堂へ移り、留学僧への施食がなされ桜井総長らも同席してタイ料理の珍味を楽しんだ。比丘が退出したあと、WFB関係の俗人に食事が出てウェサカの行事は終わった。

次期WFB大会は日本開催を希望

常任理事会の公式な席上ではないが、非公式に日本代表はWFB大会を日本で開くように要請を受けた。種々の状況をかながみ、近い将来に日本が大会主催国を引き受けねばなるまいとの印象が強い。

関東甲信越 ブロツク会議開く

各県仏から現況報告

ロ インド日本寺第三期事業協賛について

ハ バングラディッシュ救援について
3、各県仏昭和四十九年度事業報告並びに昭和五十年年度事業計画

それぞれ担当者の方々から説明、報告があったが、このうち各県仏の現況報告をお知らせする。

△東京▽ 昭和四十九年の予算編成のおり会費を一千円としたり。現在加盟寺院は二千四百七十七ヶ寺である。事業を行う時は臨時会費によって行っている。

る。最近では昭和五十年版の東京都寺院名鑑を作成した。

△神奈川県▽ 神奈川県仏では寺院相互援助組合をつくり現在九百ヶ寺が参加し、資金として二千三百万円もっている。年一回親睦旅行を行っている。今年四月二十一日より二十六日まで二十五名の参加を得て、台湾へ行った。その他婦人会青年会も行ない、八月一日には県と合同で子供会、九月には宗教講座を開催する予定。また各宗の本山めぐりを年一回、今年六月十一日より十三日北陸方面に行く。

△千葉▽ 宗連とタイアップしていろいろな事業を行っている。今後は成田山の光輪閣を借用させていただいて、県仏の諸講習会を行っていきたく思っている。なお、未加入の市町村仏教会を加入させていきたいと思っている。

△埼玉▽ すでに「全仏」誌にお知らせした如く県仏会館が出来たが今後会館屋上に大ホール及び鐘樓を建設する予定である。事業計画としては研修旅行の実施県内各地で研修会等開催、托鉢街頭伝道仏教講演会、広報活動、機関紙「埼玉佛教」の発行である。なお埼玉佛青も結成され活発な動きをみせている。

△山梨▽ 今年会則を変更し、一般寺院のうちから会長等を選ぶようにした。現在は身延山法主が会長である。布教伝道運動を今秋に展開していく。

△長野▽ 現在共済組合を設立している。県仏として一番の仕事は毎年行っている長野県仏大会で、今年で二十一回

目で上田市において開催される。仏青の活躍もめざましく、今までは南ベトナム救援活動として三百万円募金を集めたがこのうち百五十万円は今後のベトナムへのため残してある。

あてた。今後は中部地区にて八月中旬信徒会議、浜松地区では寺院親睦会を六月に行う。なお仏教婦人会では七月二十一日に会合を行う予定である。現在県仏加寺院は二千四百七十五か寺である。以上の通りである。閉会后、懇親会が開かれ和気あいあいのうちに終了した。

バングラ孤児救援金

目標額を突破

6月24日、現地で贈呈式

全日本仏教会では「バングラディシユの孤児に愛の手を」と、孤児救済募金を呼びかけたところ、このたび皆様の暖かいご協力により、目標額（五百万円）をこえたので第一次救援金として五百三万円をもって、鎌田良昭国際部長が現地を訪れ、皆様の善意を伝達する。

仏可
全第3種郵便物認

六月二十三日出発、二十四日タッカ市においてダンマラーチカ孤児院とアグラサラ孤児院で贈呈式を行う。なお北之内真童師（埼玉県仏事務局長）、山田一真師（東京ブディストクラブ代表）が同行し現地の状況を視察する。

皆様の恩情あるご協力で感謝申し上げますとともに寄せられた手紙の一部を掲載いたします。

☆私達にも四歳と二歳の子供がおり、人

ごとは思いません。子供にもバングラディシユの孤児のことを話してお年玉を少し出させました。わずかですがお役に立てればと思ってお送りいたします。(S・T)

☆内職で得たわずかなお金ですが、パン一切れにでもかえて子供達にあたえて下さい。(山形県・主婦)

☆学校祭で各国の悲惨な事情を一般の方々に知って頂くためにヘルプコーナーを設け大きな関心を引きました。この窮状にいくらかでもお役に立ちたいと思ひ、生徒一同の気持として、甚だ些少でございますが学校祭益金の一部をお送ります。心の糧となれば幸甚です。(栃木県立黒磯高等学校)

☆満足なことではできませんが、それでも

八秒に一人の割合で死ぬという飢餓者のことを思うと傍観という訳にもいきませんので少額ですがどうぞバングラディシユの人々のためにお使い下さい。平常からやまもすると食物を粗末にしがちな自分に憤りを感じるとともに、世界中に無数に存在する飢えた人々のため、何ひとつ為す術もたぬ無力な自分を口惜しく思っていました。それ故この度の協力募金主旨の記事には感謝しております。(生駒山麓の住人)

☆私の小遣いから送ります。援助のたしにして下さい。(中二・下田)

☆わたしたちのクラスのグループノートにバングラディシユの現状を書いてくれた人があったことがきっかけで、クラスで気の毒な人々に義援金を送ろうということになりました。みんなのあたたかい心がこもっているお金です。どうぞお役立て下さい。(浜松市立観塚中学校一年五組一同)

救援寄金

(6月18日現在)

- 総計 六百九十四万四千九百七十八円
- ◎一般協力者よりの寄金
- 合計 百四十三万一千二百四十六円
- ◎全日仏加盟団体および関係寺院団体よりの寄金
- 合計 五百五十一万三千七百三十二円
- 右のうち五月二十二日より六月十八日までの内訳

- 五十万一千三百円 岐阜県仏教会(第一、二回)
- 二十万円 東京都仏教連合会、東本願寺
- 十五万二千九百円 神奈川県仏教会
- 十一万七千六百十二円 園城寺(滋賀)
- 十一万三千円 静岡県仏教会
- 七万六千八百円 大阪府仏教会
- 三万円 真理運動本部(東京)、金地院(東京)
- 二万九千九百円 香川県仏教会(第三回、計十七万二千八百円)
- 二万六千六百円 真松院(東京)
- 一万三千元 金剛院(東京)
- 一万円 善光寺(神奈川)、荘厳寺(東京)
- 法泉寺(東京)
- 八千七百八十五円 心月院(奈良)
- 八千円 千葉県仏教会(第二回、計十四万八千円)
- 五千円 毎日新聞英文編集局、法音寺(東京)
- 二千元 西光寺(埼玉)

暑中お見舞い申し上げます

曹洞宗宗務庁

管 長 岩本勝俊
 宗務総長 田辺哲崖
 参 議 大島恭龍
 参 議 佐瀬淳光
 財政部長 芳賀達宗
 総務部長 町田宗夫
 教学部長 森田彦英
 布教部長 岸野恭順
 教化部長 佐藤正道
 秘書室長 大竹明彦
 広報室長 松原太流

勅願道場大本山国分寺
 真言宗国分寺派宗務庁

管長・座主 西口 公教
 大僧正
 大阪府仏教会々長
 大阪市大淀区国分寺町四一
 電 〇六一三五一五六三七

真言宗豊山派宗務所

管 長 鳥居敬誉
 宗務総長 浅井堅教
 総務部長 中川祐俊
 財務部長 久保埜太清
 教務部長 高山宥進
 教化部長 吉田俊誉

總本山長谷寺
 東京出張所長 門屋大寿
 東京都文京区大塚五一四〇一八
 〒112〇三(九四五)〇六三九(代)

近代仏教研究会

壬生 照順
 台東区元浅草一ノ一七

本門法華宗

管 長 永井日揮
 総 長 増田宏雄
 議 長 中村弘通

京都市上京区寺ノ内通
 大宮東入妙蓮寺前町八五七

法華宗(本門流)

管 長 森 日彰
 宗務総長 福島日陽

東京都豊島区北大塚
 一〇二六の四
 〇三(九一〇)三五九八
 四七五五

念法真教教団

燈 主 小倉靈現
 管 領 小倉良現

孝道教団

大統理 岡野正道
 統 理 岡野正貫
 副統理 岡野貴美子

大阪市鶴見区緑三十四一三二
 〒538 〇六(九二)二二〇一

横浜市神奈川区鳥越三八
 〒221 〇四五(四三)二二〇一

暑中お見舞い申し上げます

臨済宗妙心寺派

管 長 梶 浦 逸 外

宗務総長 江 西 寛 堂

総務部長 後 藤 純 一

教学部長 竹 中 玄 鼎

財務部長 梶 田 泰 賢

花園会本部長 原 英 嶽

法務部長 渡 辺 琢 山

京都市右京区花園妙心寺町
〒616〇七五(四六三)三二二一

京都仏教徒会議事務局長

五十嵐 隆 明

京都市東山区大和大道通三条下
養福寺内〇七五・五六一―二九九〇

社団法人

全日本仏教婦人連盟

会 長 大 谷 智 子

副会長 一 条 智 光

〃 岡 野 貴 美 子

理事長 山 本 杉

事務局長 船 口 暉 子

事務局

東京都世田谷区桜上水四一九一七
〒156 〇三三(三〇二)一五九八

福岡県仏教連合会々長

福岡県青少年教化協議会々長

福岡県宗教懇話会常任幹事

日蓮宗妙教寺住職

花 田 英 忠

大阪府仏教会

会 長 西 口 公 教 (国分寺)

副会長 鷺 地 一 隆 (本照寺)

〃 井 上 文 克 (妙信寺)

事務局長 川 口 良 信 (全興寺)

事務局

大阪府大淀区国分寺町四一
国分寺内
〒511 〇六(三五二)五六三七

京都府仏教会

会 長 梶 浦 逸 外

副会長 渋 谷 有 教

〃 沢 崎 梁 寿

〃 横 井 鶴 洲

事務局

京都市中京区烏丸通三条下ル公
益社ビル五階
〒600

沖縄県仏教会

会 長 田 原 惟 信

副会長 岡 本 恵 清

幹 事 糸 数 真 人

同 善 国 乘 憲

山形県仏教会

(山形県村山市権岡得性寺中)

会 長 五 十 嵐 頭 道

副会長 板 垣 隆 寛

事務局長 副会長 池 田 国 雄

次事務局長 阿 部 光 伸

第23回全仏兵庫大会

準備委員会ひらく

六月六日午前十一時より全仏会議室において第二十三回全日本仏教徒会議兵庫大会の準備委員会が開かれた。趣旨については「人類の不安にみほとけの光を」というスローガンにそった趣旨を作成することに合意したが「人類の不安」というものは様々な相があり、それを徹底的に分析した上でなければ、議論も抽象的なものになってしまう」という提言もあり第一部会には問題提起者をおいてはどうかという意見がでた。その他、大会の役割等について討議がなされた。

(出席者・敬称略) 麻布照海・真溪義貴・船口暉子・板橋宥成・郡司博道・田村俊弘の各氏。事務局からは桜井・白川・加藤・小峰・杜多。

仏教伝道文化賞の授賞式

仏教伝道文化賞の第九回授賞式が、六月十二日東京・三田の仏教伝道センタービルで行われた。

今回の受賞者は、文化賞が選定A項(研究・論文・著述・翻



訳・踏査・出版)より「仏教語大辞典」編集の中村元氏とC項(伝道者・実践者)より仏教の世界的伝道に活躍されたクリスマス・ハンフレイズ氏。功労賞は大西良慶師と松浦しのぶ氏。佐藤密雄選定委員長より審査報告のあと、賞状・賞品が贈呈された。

【写真は文化賞を受ける中村元氏】

中山・法華経寺晋山式

日蓮宗霊跡寺院の一つである中山・法華経寺(千葉)で、五月二十二日、渡部公允(宗務総長)貫首の第百三十三世法灯継承晋山式が盛大に執行され、金子日威管長、望月日滋身延山法主に続いて、全仏を代表して白川良純総務局長が祝詞をのべた。

仏教徒平和の会、ソ連・モンゴル訪問

仏教徒平和の会(壬生照順会長)は、ソ連およびモンゴル仏教会長の招きにより、ソ連・モンゴル訪問日本仏教友好代表団を送った。一行は壬生照順団長(全仏評議員)、麻布照海(全仏前事務総長)、岩本英樹(全仏組織専門委員)など七名で六月十日から十九日間の日程。大阪府仏教会、スリランカ訪問
大阪府仏教会(西口公教会長)では、スリランカ仏教会の招請を受けて、五月二十八日より五泊六日の日程でスリランカ共和国を親善訪問した。

県……仏……だ……よ……り……

徳島県仏教会 七月二十六日午後一時より、徳島市・郷土文化会館において、

生命科学と仏教と題して、仏教大講演会を開催する。講師は野田春彦東大教授と佐伯真光相模工大教授。

岩手県仏教会 五月二十七日定期総会が開かれ、役員改選などが審議された。その結果、会長・上館馨文師、事務局長・松尾晃一師が選ばれた。

訂正 五月号掲載P3 雲井昭善先生の文章中、一段十行目・業は業の、一段二十六行目・業とを業を、三段十八行目・障りとなる。一(。は、)三段二十七行目・マス法典一マヌ法典、四段二十六行目・衆生悉く有仏一衆生悉有仏と訂正しおわび申し上げます。

休刊 八月号は都合により休刊いたします。

事務局録事(六月)

- 二日 関東甲信越静ブロック会議
- 三日 //
- 五日 人口問題調査委員会準備会
- 六日 全仏兵庫大会準備委員会
- 九日 各宗派教化担当者会議
- 訪し仏教団欽送会出席
- 十一日 靖国問題協議会
局内会議
- 十二日 仏教伝道文化賞贈呈式出席
- 十三日 日宗連理事会
- 十五日 智積院金堂落慶式出席
- 十九日 自民党打ち合せ
- 二十三日 バンクラへ出発
- 二十五日 局内会議

暑中御伺い

財団法人

仏教振興財団

月刊誌「心の糧」

理事長 竹村 吉右衛門

事務局長 長 瀬 貫 公

新義真言宗管長 関 尚道
総本山根来寺座主

新義真言宗 宗務総長 下平 耕道

総本山根来寺 事務長 環 俊賢

融通念仏宗

管 長 本 靈 禅 山
 宗務総長 萩 元 明 信
 教学部長 倍 敏 良 舜
 庶務部長 池 嶋 得 宝
 財務部長 栗 山 良 全

昭和五十年七月一日発行
七月号 第二〇九号

発行人 桜井大乗
編集人 清胤徹昭

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話 〇三(八四三)六三三・四一三